2027 年度秋の三者総会 議案書

令和 8 年 10 月 19 日 (月)〜10 月 23 日 (金)

概要

本議案書は、令和 8 年 10 月 19 日 (月)〜10 月 23 日 (金) 開催の 2027 年度秋の三者総会に提出されたものである。

目次

1 **2026 年度決算** 1
1.1 収支の概要 1
1.2 収入 2
1.3 支出 3

2 **2027 年度予算案** 4
2.1 収入予定 4
2.2 支出予定 5
2.3 収支見込み 7

3 **センター校・準備校ローテーションの見直し** 7
3.1 センター校・準備校ローテーションから新潟大学を外す 7
3.2 2028 年度準備校に対する新潟大学からの提案 8

1 2026 年度決算

2026 年 10 月 16 日
文責：東家聖 (大阪大学)

2026 年度決算書を以下の通り提出いたします。何卒ご承認をよろしくお願い申し上げます。

1.1 収支の概要

- (+) が収入を、(-) が支出を表す。

項目	本年度決算	前年度決算
参加登録費	+¥1,432,000	+¥1,276,000
素粒子論グループ援助金	+¥450,000	+¥450,000
基研援助金	+¥465,930	+¥416,723
日本物理学会原稿料	+¥3,000	+¥3,000
日本物理学会共催分担金	+¥50,000	+¥0
コンベンション開催支援助成金	+¥500,000	+¥0
懇親会余剰金	+¥3,868	+¥4,920
参加費払い戻し辞退分	+¥4,000	+¥0
前年度繰越金	+¥847,811	+¥815,426
旅費補助	-¥1,768,369	-¥1,585,711
役職校支出	-¥1,152,155	-¥532,547
次年度繰越金	¥836,085	¥847,811

1.2 収入

(1) 前年度繰越金：¥847,811

(2) 参加費：¥4,000 × 358 = ¥1,432,000

(3) 懇親会余剰金：¥3,868

(4) 参加費払い戻し辞退分：¥4,000

(5) 外部団体からの援助・協賛金 (内訳は下表) :¥1,468,930

団体名	内容	支援額
素粒子論グループ	旅費補助	¥450,000
基研	講師等旅費	¥465,930
RCNP	協賛, 原子核研究出版費	出版費
KEK	協賛	¥0
仁科加速器センター	協賛	¥0
日本物理学会	出版費, 共催分担金	¥53,000
静岡県東部地域コンベンションビューロー	コンベンション開催支援助成金	¥500,000
申請額合計		¥1,468,930

収入合計：(1) + (2) + (3) = <u>¥3,756,609</u>

1.2.1 素粒子論グループよりいただいた援助金の用途

素粒子論グループよりいただいた援助金 ¥450,000 の用途の内訳を次の表にまとめる。

項目	金額
旅費補助	¥450,000
合計	¥450,000

1.2.2 基研からの援助金の用途

基研よりいただいた援助金 ¥465,930 の内訳を次の表にまとめる。

項目	金額
旅費補助	¥465,930
合計	¥465,930

1.3 支出

(1) 旅費補助：¥1,768,369

(2) 役職校支出合計：¥1,152,155 (支出の内訳については次の表および次節を参照)

役職名	予算	決算	差額	前年度決算
三者センター校	¥10,000	¥9,175	-¥825	¥4,752
三者事務局	¥0	¥0	¥0	¥0
三者準備校	¥1,126,620	¥1,131,220	+¥4,600	¥511,343
三者企画校	¥28,237	¥6,237	-¥22,000	¥16,452
素粒子論パート準備校	¥6,140	¥5,523	-¥617	¥0
素粒子論パート講義録校	¥0	¥0	¥0	¥0
原子核パート校	¥8,056	¥0	-¥8,056	¥0
計	¥1,179,053	¥1,152,155	-¥26,898	¥532,547

支出合計：(1) + (2) = ¥2,920,524

次年度繰越金：(収入合計)−(支出合計)=¥836,085 (対前年差-¥11,726)

1.3.1 各三者役職校の支出内訳

- 三者センター校 (大阪大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
振込手数料	¥10,000	¥9,175	-¥825	¥4,752
合計	¥10,000	¥9,175	-¥825	¥4,752

振込手数料：旅費補助等の振り込み手数料

- 三者準備校 (北海道大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
施設使用料	¥820,800	¥820,800	¥0	¥485,220
備品貸出料	¥289,880	¥295,120	+¥5,240	¥0
備品送料	¥7,340	¥6,660	-¥680	¥5,130
消耗品代	¥8,600	¥8,600	¥0	¥1,668
機材費	¥0	¥0	¥0	¥19,325
コピー代	¥0	¥40	+¥40	¥0
合計	¥1,126,620	¥1,131,220	+¥4,600	¥511,343

施設使用料：会場「プラサヴェルデ」を 8/2 から 8/6 まで使用。

備品貸出料：会場内において使用する備品 (マイク、プロジェクターなど) の使用料。

備品送料：「前年度準備校→今年度準備校→会場→次年度準備校」の郵送費 (各々の経路で 2,340 円、2,380 円、1,940 円。本来は「今年度準備校→次年度準備校」の分のみ負担すれば良いが、今回は特例に

より前年度準備校からの分も負担した。)
消耗品代: 名札 100 枚 & マジックテープ 75m(25m × 3 セット) 分
コピー代: 領収書のコンビニでの印刷代。

- 三者企画校 (総合研究大学院大学・千葉大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
共通講義・キャリアフォーラム講師の懇親会費	¥22,000	¥0	-¥22,000	¥0
賞状・表彰状	¥6,237	¥6,237	¥0	¥16,452
合計	¥28,237	¥6,237	-¥22,000	¥16,452

賞状・表彰状 (21 枚): ポスター賞、口頭発表賞受賞者への表彰。https://d-shojo.com/sj/page/price/index.html

1.3.2 各パート役職校の支出内訳

- 素粒子論パート準備校 (埼玉大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
機材運送費（ゆうパック・140 サイズ）	¥4,340	¥3,650	-¥690	¥0
32GB SD カード（2 枚）	¥1,500	¥1,606	+¥106	¥0
布粘着・クラフトテープ (各々 1 つ)	¥300	¥267	-¥33	¥0
合計	¥6,140	¥5,523	-¥617	¥0

機材運送費: ゆうパックで機材を運送する．金額は夏学前に埼玉大学→沼津郵便局（1710 円)、最終日に沼津郵便局→次年度のパート準備校（1,940 円)。
32GB SD カード (2 枚): 未使用の 32GB SD カードが現在 1 枚のみのため、補填として 2 枚購入。
布粘着・クラフトテープ (各々 1 つ): 粘着テープが欠品しているため、布粘着テープ・クラフトテープを各種一つずつ購入。

- 原子核パート校 (筑波大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
ポケット Wi-Fi	¥2,660	¥0	-¥2,660	¥0
変換器 (HDMI,VGA↔USB-C)	¥2,698	¥0	-¥2,698	¥0
変換器 (HDMI,VGA↔USB-A)	¥2,698	¥0	-¥2,698	¥0
合計	¥8,056	¥0	-¥8,056	¥0

2 2027 年度予算案

2026 年 10 月 16 日
文責：原田 亙

2.1 収入予定

(1) 前年度繰越金（2026 年度決算終了時の繰越金額）：¥836,085

(2)　参加登録費（参加者 340 名、参加費 4,500 円の場合）：¥4,500 × 340 = ¥1,530,000

(3)　外部団体への援助・協賛申請（内訳は下表）：¥1,553,000

団体名・制度	内容	2027 年度予算計上額（円）
素粒子論グループ	学生旅費等補助（承認済み）	500,000
基礎物理学研究所	学生・講師の旅費・宿泊費補助	500,000
RCNP	協賛	0
KEK	協賛	0
理研仁科加速器研究センター	協賛・「原子核研究」出版費援助	出版費
日本物理学会	共催分担金・原稿料等	53,000
コンベンションビューロー	開催支援助成金	500,000
計		1,553,000

(4)　収入合計：(1) + (2) + (3) =¥3,919,085

素粒子論グループには秋季学会で ¥500,000 を申請し、採択されている。その他の団体の援助・協賛額は申請額であり、採択額・交付額の確定後に修正する。基礎物理学研究所には例年どおり共同利用研究計画として申請し、コンベンション開催支援助成金は、宿泊実績に応じて 1 泊当たり 1,000 円、上限 ¥500,000 を見込む。

2.2　支出予定

各役職校からの予算申請を元に作成した。2026 年度決算額は、大阪大学から報告された決算に基づく。

役職名	2027 年度予算案	2026 年度決算額
三者センター校	20,000	9,175
三者事務局校	0	0
三者準備校	1,206,160	1,131,220
三者企画校	27,000	6,237
素粒子パート準備校	7,927	5,523
素粒子パート記録校	0	0
原子核パート校	8,425	0
ハラスメント対策委員会	187,000	0
計	1,456,512	1,152,155

(注.) 他に学生旅費補助 ¥1,700,000 を計上する。役職校等支出との合計支出は ¥3,156,512 である。以下に各役職校・委員会の申請内訳を示す。

2.2.1　各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校（九州大学）

申請項目	申請額
旅費補助等の振込手数料	20,000
計	20,000

2026 年度の振込件数と参加者人数の増加を踏まえ、旅費補助等を団体口座から振り込む際の手数料を計上する。

- 三者事務局校（中央大学）例年どおり、支出予定はない。

- 三者準備校（名古屋大学）

申請項目	申請額
施設使用料	821,320
備品貸出料	339,840
備品送料	5,000
消耗品代	10,000
ポスター制作費	30,000
計	1,206,160

会場「プラサヴェルデ」を 2027 年 8 月 16 日から 20 日まで使用する。備品貸出料はマイク、プロジェクター等の会場備品、備品送料は次年度校への運搬、消耗品代は運営に必要な文具等である。

- 三者企画校

申請項目	申請額
共通講義・キャリアフォーラム講師の懇親会費	20,000
賞状・表彰状（25 枚）	7,000
計	27,000

講師懇親会費は 4 名分を 1 名当たり 5,000 円として算出した。賞状・表彰状は、ポスター発表賞および口頭発表賞の受賞者へ授与する 25 枚分を見込む。

2.2.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子パート準備校（立教大学）

申請項目	申請額
機材運送費	4,340
単四電池	679
布粘着テープ・クラフトテープ	634
変換ケーブル 2 種	2,274
計	7,927

機材運送費は東京から沼津まで 2,170 円、沼津から次年度担当校まで 2,170 円として算出した。電池はレーザーポインター・ボイスレコーダー、テープ類は会場設営、変換ケーブルは録画データの取込みおよび講演スライドの投影に使用する。

- 素粒子パート記録校（新潟大学）
  録画・通信機材および送料は、素粒子パート準備校の申請に含めるため 0 円とする。

- 原子核パート校

申請項目	申請額
ポケット Wi-Fi	2,350
HDMI・VGA–USB-C 変換器	2,698
HDMI・VGA–USB-A 変換器	2,698
単四電池	679
計	8,425

ポケット Wi-Fi は講義の Zoom 録画、変換器は研究会・講義での投影、電池はレーザーポインターに使用する。

2.2.3 ハラスメント対策委員会の支出予定項目

申請項目	申請額
外部相談窓口・講習会委託費	187,000
計	187,000

2026 年度夏の三者総会での決議を踏まえ、ハラスメント相談窓口およびハラスメント講習会の外部委託に向けた検討を進めており、これに係る費用を計上する。委託先については、選定経緯、他事業者との比較、業務範囲および追加料金等を確認した上で決定する。

2.3 収支見込み

支出合計は、学生旅費補助 ¥1,700,000 と役職校等支出 ¥1,456,512 を合わせた ¥3,156,512 である。したがって、収入見込み ¥3,919,085 との差額である ¥762,573 を 2028 年度へ繰り越す見込みである。

3 センター校・準備校ローテーションの見直し

2026 年 10 月 15 日
文責：鈴木大遥 (新潟大学)

原子核素粒子若手夏の学校（旧原子核三者若手夏の学校、以下、夏学と略）では、特に負担の大きいセンター校・準備校に関しては、規模の大きい 8 大学（北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、新潟大学）のローテーションで担当することが 2019 年度夏の総会で決まっております。しかし、新潟大学はローテーションが決定された 2019 年当時よりも学生の数が減少し、センター校・準備校ともに担当するのが難しい状況にあります。本議案は、2019 年に決定されたローテーションに関して見直しを要求するものです。

3.1 センター校・準備校ローテーションから新潟大学を外す

現在使用されているローテーション制度は、2019 年度夏の三者総会で提案・決定された物です。ローテーションが現在のものになった経緯として、2019 年度夏の議案書にあります、「2.4 提案 1：センター校及び準備校新ローテーション」を引用します：

> 過去にセンター校及び準備校のローテーションが提案されましたが、現状機能していません。夏の学校運営で中心的役割を果たすセンター校及び準備校を引き受けていただけない現状は、夏の学校の継続を不安定なものにしてしまいます。そこで、新たなローテーションを提案します。この提案により担当校

の安定化が図られ、夏の学校の継続につながると考えています。

1. ローテーション大学は規模が大きく原子核、素粒子両方の研究室が存在する北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大が担う。

一方、2019 年度夏の議事録にあります、「2.1 三者センター校、三者準備校のローテーションの実行（2021 年度実施)」の引用です：

三者センター校、三者準備校のローテーションの実行が可決されました。

- ローテーションは北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、新潟大学の 8 つの大学に決定しました。（略）これらの大学がローテーションに選ばれた理由は、以下の通りです：
  - 規模が大きく、安定的に博士課程、修士課程の学生が在籍していること。
  - 原子核、素粒子両方の研究室が存在していること。

以上のように、元々ローテーション校の候補として議案にすら挙がっていなかった新潟大学が、夏の三者総会によってローテーションに加わることが決定したとわかります。そうなった経緯として、新潟大学は 2019 年段階で「規模が大きく、安定的に博士課程、修士課程の学生が在籍していること」を満たしていたためだと考えられますが、ここで新潟大学素粒子論研究室・原子核理論研究室の院生数 (ここでは M1 から D3 までの人数) を 2019 年度のものと 2026 年度（今年度）で比較します：

	素粒子論		原子核理論	
	修士 (人)	博士 (人)	修士 (人)	博士 (人)
2019 年度	8	8	9	2
2026 年度	9	4	6	0

表 1　新潟大学素核研究室の院生数推移

このように、ローテーションが決定した 2019 年度よりも、院生の人数、特に博士学生の人数が減少しています。

なお、こちらの表は 2026 年度の学生数でありますが、新潟大学は当該年度 (2028 年度) の学生数を 2019 年度当時よりも予測できない状況にあります。その理由は主に、大学院の改組のためです。

新潟大学は 2026 年度に修士課程の改組がありました。また、2028 年度には博士課程も改組の対象になることからも、当該年度の大学院生の人数を予測できない状況にあります。

これに対して賛成を得られましたら、次に移ります。

3.2　2028 年度準備校に対する新潟大学からの提案

本節は、前議案「新潟大学をローテーションから外す」が採択された場合に審議いただく、2028 年度夏学の準備校に関する新潟大学からの代替案です。

3.2.1　案 1：有志学生連合による準備校の実施

この案は、夏学運営に積極的な学生を募り、有志学生連合を結成して準備校の業務を担当するものです。

2024 年度はローテーションによると新潟大学がセンター校を担当する運びとなっておりましたが、やはり今回の件のように人数が足りず、このように有志を募りました。

メリット

- 準備校を担当する大学の学生に対して、心理的負担が軽減される。
- 夏学に対して意欲的な学生が運営に携われる。
- （少々負担になってしまうが）ローテーションに関わらず前年度、(前々年度)、次年度準備校の学生が数名有志に加わることで、引き継ぎや準備校の業務をスムーズに行うことができる。

これは、2024 年度センター校として有志を募った際にも言及されたメリットです。準備校は、センター校以上に当日の運営に携わる機会の多い役職だと考えておりますので、特に「夏学に対して意欲的な学生が携わった」際に、より満足度の高い夏学が運営できると期待されます。

有志の募集方法は 2024 年度センター校の有志募集方法に倣い、次のようにします。

- 所属大学は問わず、素粒子・原子核の理論・実験研究室に在籍している学生。
  → ただし、準備校は会場の選定と予約、当日の運営などがメインの仕事であるため、分野の偏りは許されると考えている。
- YONUPA-ML に登録する or している学生。
  → ただし、募集段階での登録の有無は不問。
- 基本は 2028 年度の学年が D1、D2 の学生（現在 M1、M2 の学生）。
  → もちろん、修士学生や D3(現在 D1 の学生) の希望も受け付ける。
- 人数は 2026 年度準備校（北海道大学）や 2027 年度準備校（名古屋大学）の実働人数と照らし合わせる。
- 選考は新潟大学が責任を持って担当する。

有志の募集は秋の総会で採択され次第、YONUPA-ML、あるいは 2026 年度夏学 Discord にてアンケートを実施します。

3.2.2 案 2：ローテーションの繰り上げ

この案は、以降、新潟大学が抜けた 1 年分ローテーションを繰り上げ、2028 年度準備校は、2029 年度準備校を担当する予定であった京都大学が担当するものです。また、2019 年総会においても、人員不足により役職を辞退する場合はローテーションの繰り上げや入れ替えなどの代替措置をとることが推奨されております。

<u>メリット</u>

- 有志を募る負担がなくなる

この場合、従来よりもセンター校・準備校という負担の大きい役職が回ってくるスパンが短くなるため、新ローテーションを担う 7 大学は、それ以外の役職（企画校・事務局校・各パート校など）は極力担当しない等の措置をとる必要があると考えています。

なお、今回議案に挙げたのは 2028 年度準備校の実施方法に関するものですが、それ以降の新潟大学担当分も有志を募る、あるいはローテーションの繰り上げることを考えております。

最後に、双方の場合の新ローテーションを表にまとめます（赤字は変更される箇所）。

年度	センター校	準備校
2027	九州大学	名古屋大学
2028	東北大学	有志
2029	東京大学	京都大学
⋮	⋮	⋮
2032	有志	東北大学

表 2　新ローテーション (有志を募る場合)

年度	センター校	準備校
2027	九州大学	名古屋大学
2028	東北大学	京都大学
2029	東京大学	大阪大学
2030	北海道大学	九州大学
2031	名古屋大学	東北大学
2032	京都大学	東京大学

表 3　新ローテーション (繰り上げした場合)